２０２４年１２月号

関東学院六浦こども園

みちしるべ

みずからのために道しるべを置きみずからのために標柱をたてよ（エレミヤ31:21）

人になれ　奉仕せよ

聖　句　：今日、ダビデの町であなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシヤである。
（　ルカによる福音書　２：１１　）

保育目標：
- ０歳児　・保育者と共にクリスマスを嬉しく待つ。
- １歳児　・クリスマスを楽しみに待ち、友だちや保育者と一緒に喜ぶ。
- ２歳児　・クリスマスの雰囲気を楽しむ。自分の思いを友だちや保育者と共有する経験をする。
- ３歳児　・クリスマスの意味を知り、嬉しい気持ちで待つ。寒さの中でも戸外で遊ぶ。
- ４歳児　・イエスさまの誕生を喜び祝い、周りの人たちと分かち合う経験をする。
- ５歳児　・クリスマスを感謝と喜びをもって受けとめる。困っている人や悲しんでいる人に心を向け自分たちのできることを考えていく。

毎朝何を着ようかと迷いながら季節の移ろいを感じています。朝晩の空気は冷たいものの日中はぽかぽかと温かく、園庭で遊んでいると「暑―い。」と汗をかきながら鬼ごっこをしている声も聞こえます。季節が巡るごとに子ども同士のやり取りが深まっていることを感じる日々です。

年少組のＭちゃん、「明日は旅行にいくんだ。」とつぶやきながらお財布づくりが始まりました。丸く切った厚紙に自分で考えた数字を書き込んだり、「100 円書いて」と私にお願いをしています。お財布がパンパンになると、私に「これは先生にあげる。」と分けてくれました。私も一緒になってお財布を作り、Ｍちゃんから受け取ったお金をしまっていきました。「明日の旅行にこのお財布持っていこうかな～。」とつぶやくＭちゃん。それを聞いて「私も明日お買い物でジュース買おうかなぁ。『Ｍちゃんが作ってくれたお金です。』ってお店の人に言ってみよう」とつぶやくと、「Ｍちゃんって言っても分からないからお友達のＭちゃんって言ったほうがいいよ！それじゃないと誰か分からないよ。」と改めて言ってくれました。「お友達」という言葉を選び取ってくれたＭちゃんの心に私は嬉しくなりました。

またある日の午後、ビニール袋の口とストローをセロハンテープでつなぎ合わせ、息を吹き込むとモコモコと膨らむおもちゃを作った年少組のＨちゃん。膨らます様子を私にニコニコしながら見せてくれました。すると何気なく私の洋服でストローの吹き口を拭き…一瞬止まり…すぐに自分の袖でキュキュッと拭き直し、「はい！」とニコニコしながら吹き口を顔の前に差し出してくれました。きっと「面白いからやってみて」という思いだったのでしょう。吹いていたものをサラッと差し出してくれるＨちゃんの姿にもまた嬉しさがこみ上げました。

私たちは日々子どもたちと生活する中で様々な局面に立たされることがあります。大人として存在することが必要な時もありますが、多くは子どもと一体になって、互いに生活を紡ぎ出しながら歩むことを大切にし、一緒になって遊び込んだり、笑いあったり、時に互いに本気を試したりする毎日です。そのような存在で在りたいと思い願いながら歩んできた私にとって、このＭちゃんとＨちゃんから差し出された想いと行為は心から嬉しいことでした。近しい関係にあることを私に表明してくれているように感じました。子ども１人ひとりの存在が尊重され、１人の「人」としてこの社会の中で生きていくことを考えた時に、私たち大人がいることは何だろうといつも思わされます。私は子どもと共に感じ合い、知恵を出し合い、互いを大切に思い合える存在で在りたいと心に誓っています。

クリスマスがすぐそこまでやってきています。このアドベントの時を子どもと共に感謝し、喜んで迎えたいと心から願います。世界中にクリスマスの喜びが訪れますように。メリークリスマス

幼児主任　千葉　綾子